

第32期全国女性担当者会議（東京・勤労者山岳連盟本部）に参加して

横田峰子

- ・月 日 6月25日（土）～26日（日）
- ・参加者 横田峰子（観音寺あけぼの山の会）高寺千恵子（塩飽山の会）

全国の地方連盟から32名、全国女性委員会から14名、合計46名が東京都飯田橋の勤労者山岳連盟本部に集まった。香川から2名参加した。

基調報告 藤元理津子（全国連盟女性委員長）

今期総会の会員数は昨年を下回ってきた。その原因として高齢化。これは、労山に限らず他の登山団体も同じ。それに対する対策が追い付いていないのが現状。

一昔前は先輩から山の怖さを教わり、甘えが通じない凜とした登山の洗礼を受けてきた。現在の登山界では、登山を取り巻く社会の働き方、生き方の変化が登山の多様化を促し、登山団体の包括的役割である、楽しく安全に登るための登山技術や意識の伝承に遅れを取ったといっている言いすぎでしょうか？しかしそれでも、会のあり方、運営、体制作り等柔軟に果敢に取り組んで、生き生きと活動する労山の会・クラブの活躍がある。

2017年は女性委員会を創設して40周年を迎える。ひたむきに豊かな登山を、事故や遭難を無くすための活動を、とすすめてきたこの年月を踏まえて、自らを駆り立ててきた登山への思い、女性であることの率直な意見、希望を語り合い未来につながる闊達な討論を祈念する。と話された。

特別報告 事故報告の現状と死亡事故から気づいた点について

川島高志（全国連盟事務局長）

日本勤労者山岳連盟（労山）は登山ハイキングを健康で文化的な生活の一つであり、平和で民主的な国民生活に根ざしたスポーツ・レクリエーションとして普及し発展させることを目的に1960年に創立され、今年で56年目を迎える。その活動の一つとして「登山事故の防止と救助・救済」を行っている。

2004年に事務局長となり13年目。この間死亡・行方不明者は125名を数えている。年齢別では50～60代が多くなっている。その中において「道迷い」事故に大きな特徴があった。主たる事故原因が他にあって、「道迷い」に起因する事例もある。

「道迷い」と考えられ、死亡・行方不明者という重大結果に至った者は65名中6名が亡くなっている。約1割の確率で帰らぬ人となっている。死亡に至ったのは6名全て50～60の女性だった。

日本の山は地形、植生、気象が変化に富んでいて複雑。登山道は指導標、目印に多くの種類があり統一していない。そこで安全登山に必要な力として・想像力（これから起きる出来事、変化する状況を常に予測する）・応用力（起きた出来事、変化に富んだ状況に的確に対応する）がいる。と事故のデーターを示しながら話された。

この後、討論質疑応答、各県の現状報告、問題点を出しあった。

- ・これからの女性委員会のあり方、果たす役割について討論（長い時間を要した）
- ・女性委員会に必要なの？の問題に 事務局長の川島さんは「全国連盟の役員が今は25名中5名。これが半数近く女性になれば、女性委員会は必要ないと思う。」と発言された。
- ・「山筋ゴーゴー体操」の普及。年齢性別問わずしていこう。体力管理（筋力は何もしていないと落ちていく）各県での取り組みを。サポーターの数を増やす。
- ・原発被災地福島の子供たち参加の「8/2～8/4 静岡県を自然を楽しもう！！」計画報告
- ・2017年の「女性委員会創設40周年記念集会」の開催地と記念講演は誰がいいか？若い人が参加しやすい日時場所の設定。
- ・「女性委員会ってなあに？」のパンフレット作成について 載せてほしい内容写真の募集
　　など・・・。

労山結成56年、その中で女性委員会39年。全国のその当時若かった方が中高年になり今なお息の長い自立した登山を続けていくために色々な障害を乗り越えようと奮闘している。労山とは凄い組織だと思った。こういう方々がいるから勤労者山岳連盟は続いているのだと思った。私も力はないが少しずつでも役に立たなくてはいけないと考えた。

